

時間割コード	G2B46012	開講年度	2026				
授業題目	社会問題を研究して論文を書いてみるゼミ					担当教員	井上 信宏
英文授業名	Social Issues Research and Writing Seminar						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限	対象学生	全
講義室	共通教育 6 3 講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	大学D P 的確に情報を収集し、理解し、発信する力				・身近な社会問題から、学術的に検証可能な「問い」を抽出できる。 ・Cosense等を活用し、調査データや先行研究を構造的に整理・分析できる。 ・論理的な構成に基づき、標準的な学術論文を執筆できる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース、ライフクリエイター養成コース						
(4)授業の概要	○この授業は演習形式で行い、学生が自らが注目する社会問題を素材に、学術的に検証可能な「問い」を立て、それを客観的に検証し、問題解決に向けた政策提言を主張する学術論文として形にするプロセスを体験することを目的とします。 ○社会問題とは、個人の取り組みでは解決にたどり着けない問題現象であり、個別的・偶発的な原因ではなく、社会的に原因があるとされる問題現象のことです。例えば、私たちが暮らす社会では、自由や平等といった価値が保障されているはずですが、実際には社会的拘束（不自由）があったり、格差（不平等）があったりします。 ○この授業では、日本社会をフィールドに、こうした社会問題の現状をリサーチ（調査）して、その現状を整理し、社会的な影響を考え、その解決策を考えた上で、学術論文にまとめるまでを体験的に学びます。 ○このゼミは、全て日本語で実施します。						
(5)授業のキーワード	社会問題；社会科学；政策提言、学術論文						
(6)授業計画	1. オリエンテーション 2. 問いの探求 3. 先行研究の調査 4. リサーチ・デザイン 5. 調査・データ収集（1） 6. 調査・データ収集（2） 7. 中間報告（1） 8. 論文の構成案作成 9. 執筆演習（1） 10. 執筆演習（2） 11. 中間報告（2） 12. ピア・レビュー 13. 最終推敲 14. 最終発表会 15. まとめと授業アンケート ○なお、授業計画の一部は、受講学生数、学生の学修進度等により前後すること、変更等があります。 ○最終回に「授業アンケート」を実施し、本演習の到達基準を達成できたか確認します。						
(7)成績評価の方法	○個人ワークやグループワークを通じて、社会問題の現場にかかる情報を収集し、それをわかりやすく整理し、解決策も含めて、研究成果を発信する、という観点から、最終レポート（50％）、授業中に課される課題や発表・討論の内容（50％）によって、総合的に評価する。 ○毎回の授業の後に、リアクションペーパーを提出する（上記後半の50％に含まれる）。						
(8)成績評価の基準	【90-100点】授業の課題に個人的にもグループでも生産的かつ創造的な形で取り組み、整合的であるだけでなくより深い洞察がなされ、それが正課物に創造的な形で表現されている。 【80-89点】授業の課題に自分なりに、あるいはグループで協力して取り組み、思考や分析が整合した形で反映されていて、それらが正課物に表現されている。 【70-79点】授業の課題に対して、自分なりに取り組んだが、思考や分析にはまだ課題が残されている。 【60-69点】少なくともも要求された課題に最低限のレベルで取り組み、それを最低限の水準で達成した。						
(9)事前事後学習の内容	○Cosenseで紹介されるリーディング（PDFで提供されるもの／URLで紹介されているもの）は、授業の事前事後に読むことが義務付けられています。 ○この授業は90時間の学修を必要とする内容です。したがって、60時間以上の時間外学修が必要となります。						

(9)事前事後学習の内容	
(10)履修上の注意	○学生参加型のゼミなので、参加学生の主体的な参加態度が不可欠です。 ○毎回の授業には、大学のネットワークに繋がるノートパソコン、あるいはタブレット端末を持参してください。 ○毎回の授業では、インターネットで無償で提供されるCosenseというサイトを利用します。レジュメや資料は、Cosenseを使って提供します。 ○この授業は、全て日本語で行います。
(11)質問,相談への対応	○質問したい受講生には、講義が終わった直後に対応します。 ○講義時間以外の質問や相談については、メールで受け付けます。 ○上記以外での質問や相談は、事前にメールでアポイントメントを入れてください。
(12)授業への出席	○全ての授業に出席することが求められています。毎回、出席管理をしますので、全ての授業で出席確認システムによる着席登録を行ってください。スマートフォン等のQRコード読取り端末を忘れた場合は、授業が始まる前に教室で担当教員にその旨を伝えてください。なお、出席確認システムの登録で不正行為が見つかった場合は、学則に従って「不正行為」として処罰されます。 ○20分以上の遅刻は「欠席」と扱います。 ○やむを得ず欠席する場合は、当該授業が始まるまでに、担当講師にメールで連絡すること。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	○この授業は、「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する「学修の補充を対象とする事由」で欠席した場合を含み、欠席回数が4回以上になると、授業の達成目標に到達することができないため単位が認定されません。
【教科書】	○授業中に指示する。
【参考書】	○授業中に指示する。